

住まいに関するアンケート調査結果

住宅課

1 調査目的

住まいに対する県民の皆さんの意識を把握し、今後の住生活基本計画の見直しと住宅施策の基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

2 調査対象等

調査対象: 県政モニター967人(うちインターネットモニター636人)

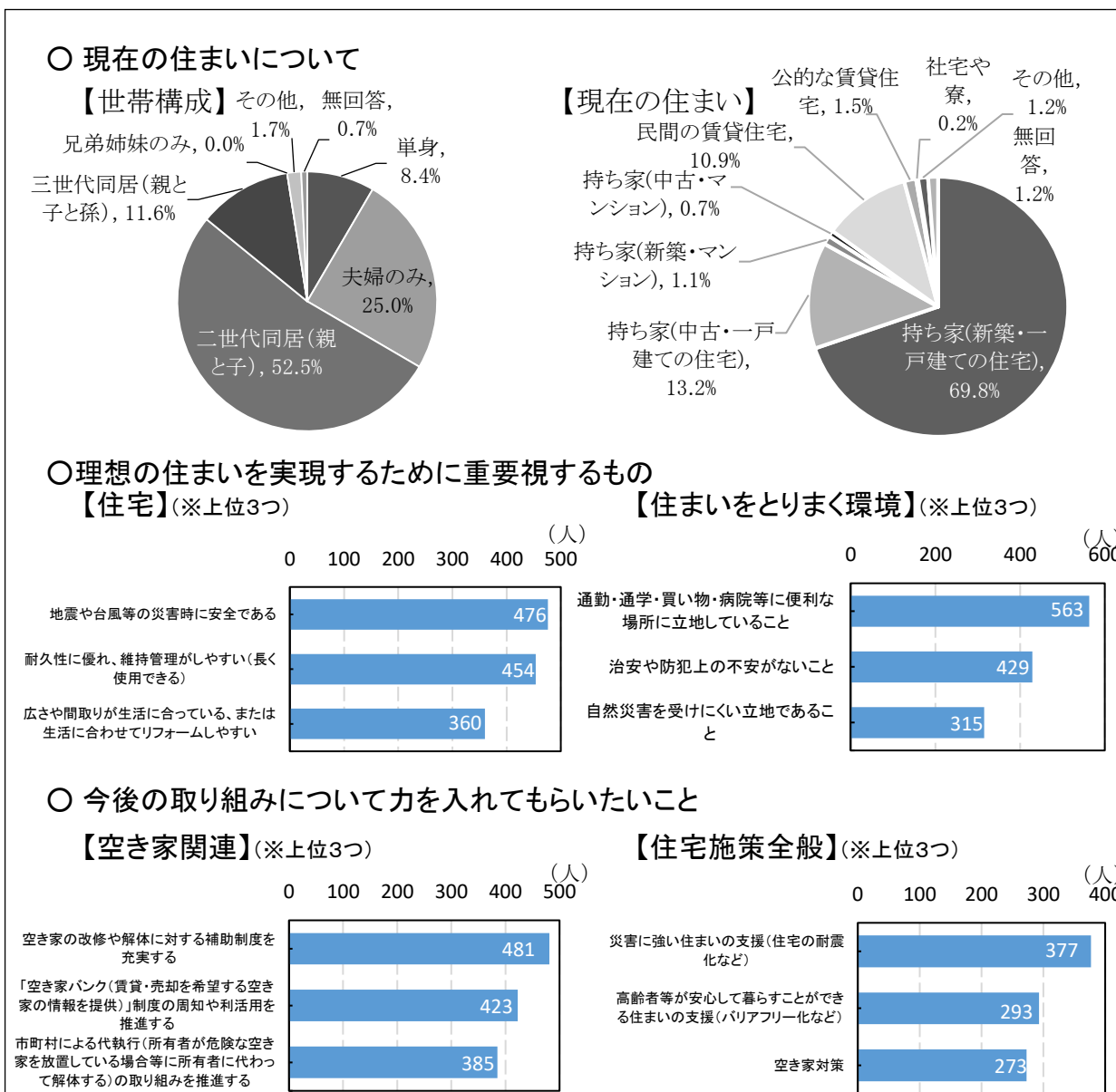
調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和3年6月11日～6月29日

回収結果: 808人(回収率: 83.6%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100%にならない場合があります。

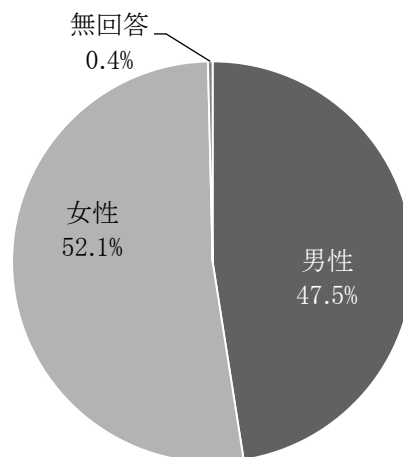
3 結果概要



4 回答者属性

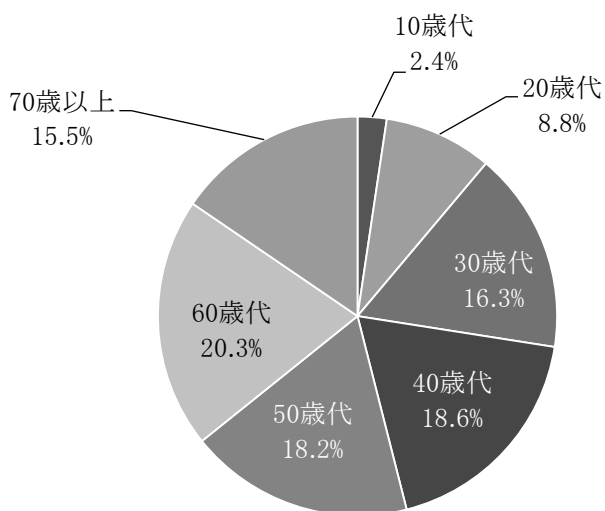
(1) 性別

	人数	割合
男性	384	47.5%
女性	421	52.1%
無回答	3	0.4%
計	808	100.0%



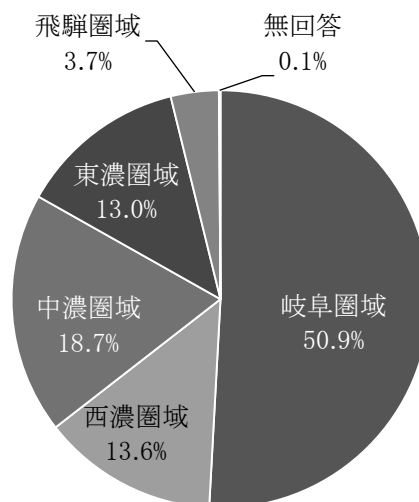
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	19	2.4%
20歳代	71	8.8%
30歳代	132	16.3%
40歳代	150	18.6%
50歳代	147	18.2%
60歳代	164	20.3%
70歳以上	125	15.5%
計	808	100.0%



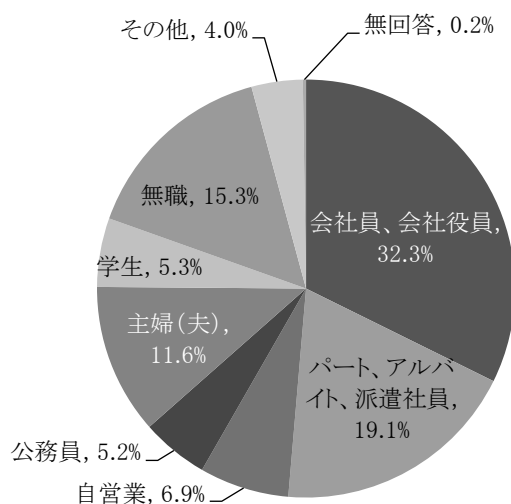
(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	411	50.9%
西濃圏域	110	13.6%
中濃圏域	151	18.7%
東濃圏域	105	13.0%
飛騨圏域	30	3.7%
無回答	1	0.1%
計	808	100.0%



(4)職業別

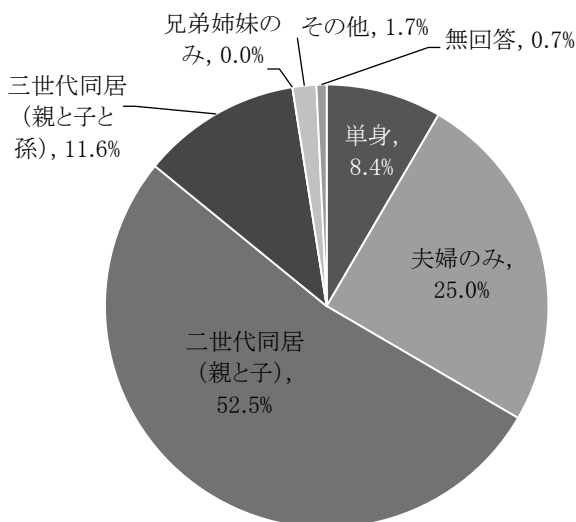
	人数	割合
会社員、会社役員	261	32.3%
パート、アルバイト、派遣社員	154	19.1%
自営業	56	6.9%
公務員	42	5.2%
主婦(夫)	94	11.6%
学生	43	5.3%
無職	124	15.3%
その他	32	4.0%
無回答	2	0.2%
計	808	100.0%



5 調査結果

問1 あなたの世帯構成は、次のうちどれにあてはまりますか。

	人数	割合
単身	68	8.4%
夫婦のみ	202	25.0%
二世帯同居(親と子)	424	52.5%
三世帯同居(親と子と孫)	94	11.6%
兄弟姉妹のみ	0	0.0%
その他	14	1.7%
無回答	6	0.7%
計	808	100.0%

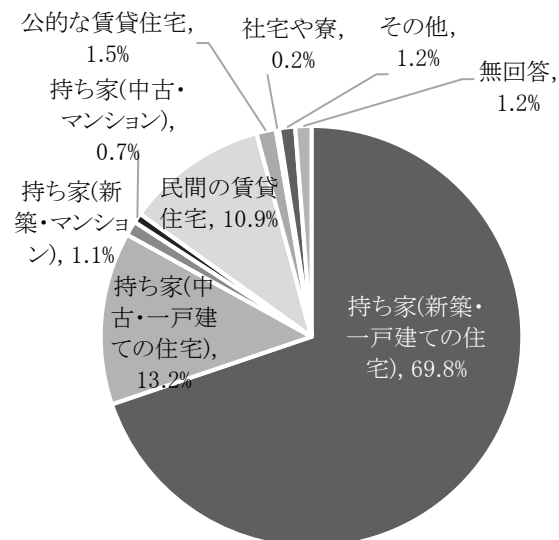


「その他」のうち主なもの

- ・ ひとり親世帯
- ・ 夫婦と孫

問2 あなたが現在お住まいの住宅は、次のうちどれにあてはまりますか。

	人数	割合
持ち家(新築・一戸建ての住宅)	564	69.8%
持ち家(中古・一戸建ての住宅)	107	13.2%
持ち家(新築・マンション)	9	1.1%
持ち家(中古・マンション)	6	0.7%
民間の賃貸住宅	88	10.9%
公的な賃貸住宅(県営住宅、市営住宅、県住宅供給公社賃貸住宅など)	12	1.5%
社宅や寮	2	0.2%
その他	10	1.2%
無回答	10	1.2%
計	808	100.0%



「その他」のうち主なもの

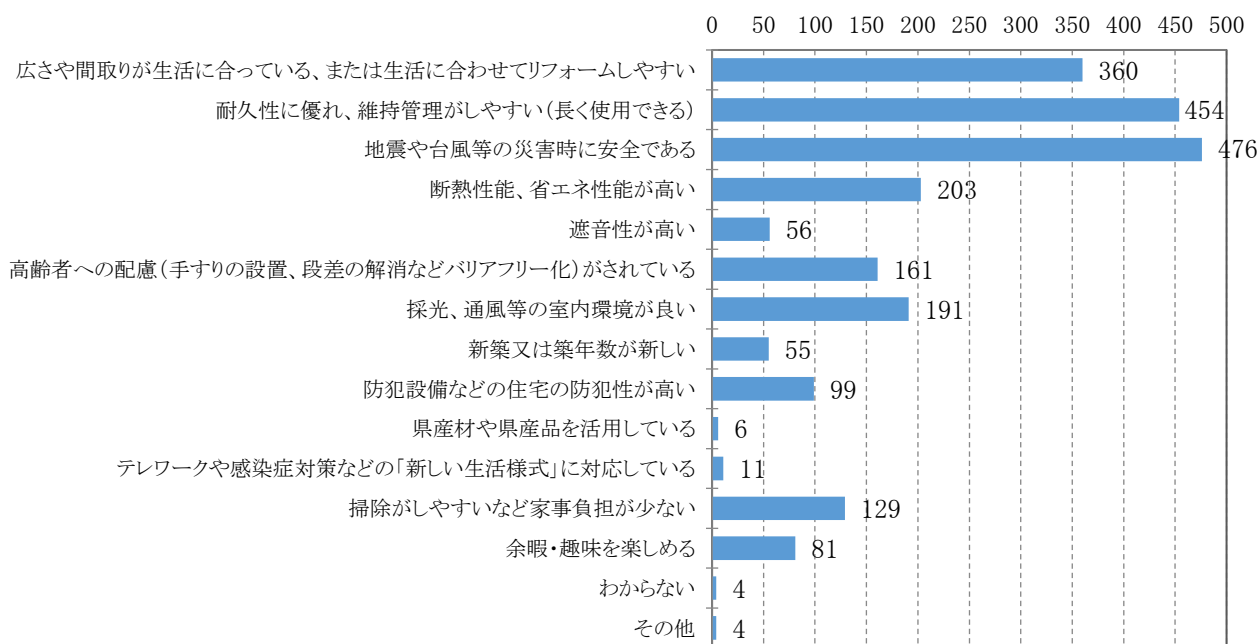
- ・ 親の持ち家

問3 あなたが理想の住まいを実現するために、住宅について重要視するものは何ですか。

(複数回答) 回答者 801 人

	回答数	割合
広さや間取りが生活に合っている、または生活に合わせてリフォームしやすい	360	44.9%
耐久性に優れ、維持管理がしやすい(長く使用できる)	454	56.7%
地震や台風等の災害時に安全である	476	59.4%
断熱性能、省エネ性能が高い	203	25.3%
遮音性が高い	56	7.0%
高齢者への配慮(手すりの設置、段差の解消などバリアフリー化)がされている	161	20.1%
採光、通風等の室内環境が良い	191	23.8%
新築又は築年数が新しい	55	6.9%
防犯設備などの住宅の防犯性が高い	99	12.4%
県産材や県産品を活用している	6	0.7%
テレワークや感染症対策などの「新しい生活様式」に対応している	11	1.4%
掃除がしやすいなど家事負担が少ない	129	16.1%
余暇・趣味を楽しめる	81	10.1%
わからない	4	0.5%
その他	4	0.5%
計	2290	-

(人)



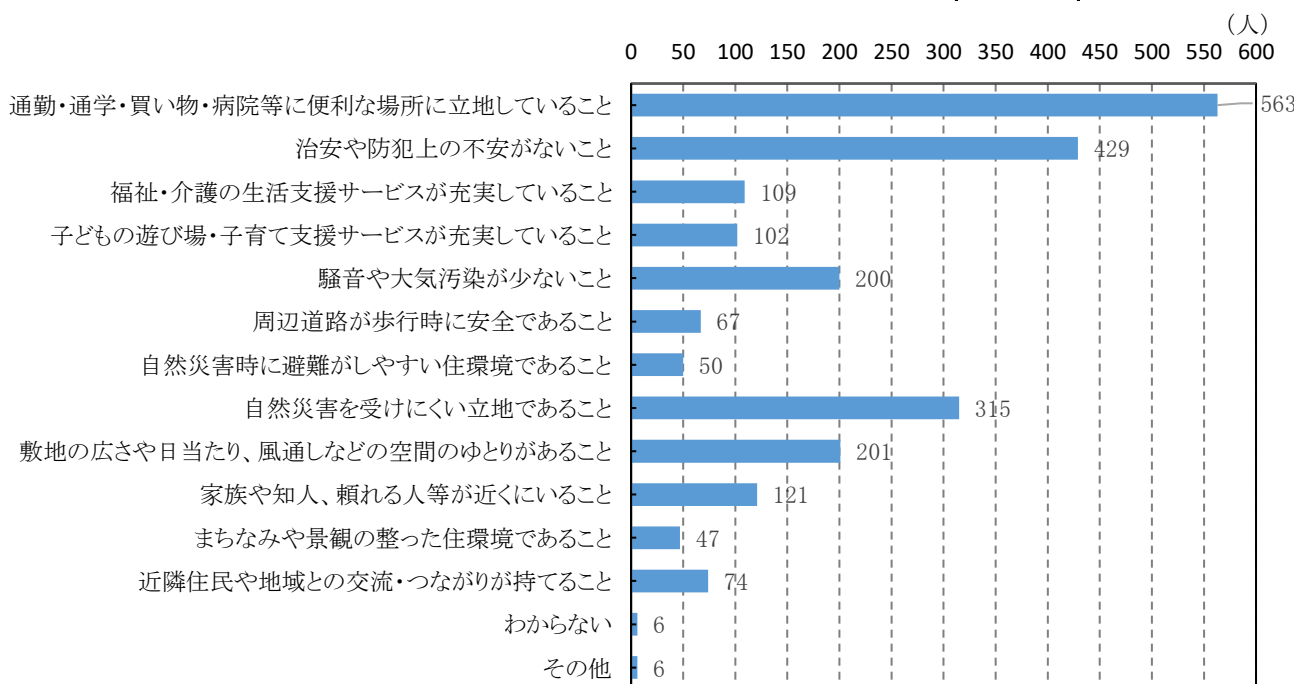
「その他」のうち主なもの

- ・ 収納が多い

問4 あなたが理想の住まいを実現するために、住まいをとりまく環境として重要視するものは何ですか。

(複数回答) 回答者 798 人

	回答数	割合
通勤・通学・買い物・病院等に便利な場所に立地していること	563	70.6%
治安や防犯上の不安がないこと	429	53.8%
福祉・介護の生活支援サービスが充実していること	109	13.7%
子どもの遊び場・子育て支援サービスが充実していること	102	12.8%
騒音や大気汚染が少ないこと	200	25.1%
周辺道路が歩行時に安全であること	67	8.4%
自然災害時に避難がしやすい住環境であること	50	6.3%
自然災害を受けにくい立地であること	315	39.5%
敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとりがあること	201	25.2%
家族や知人、頼れる人等が近くにいること	121	15.2%
まちなみや景観の整った住環境であること	47	5.9%
近隣住民や地域との交流・つながりが持てること	74	9.3%
わからない	6	0.8%
その他	6	0.8%
計	2290	-



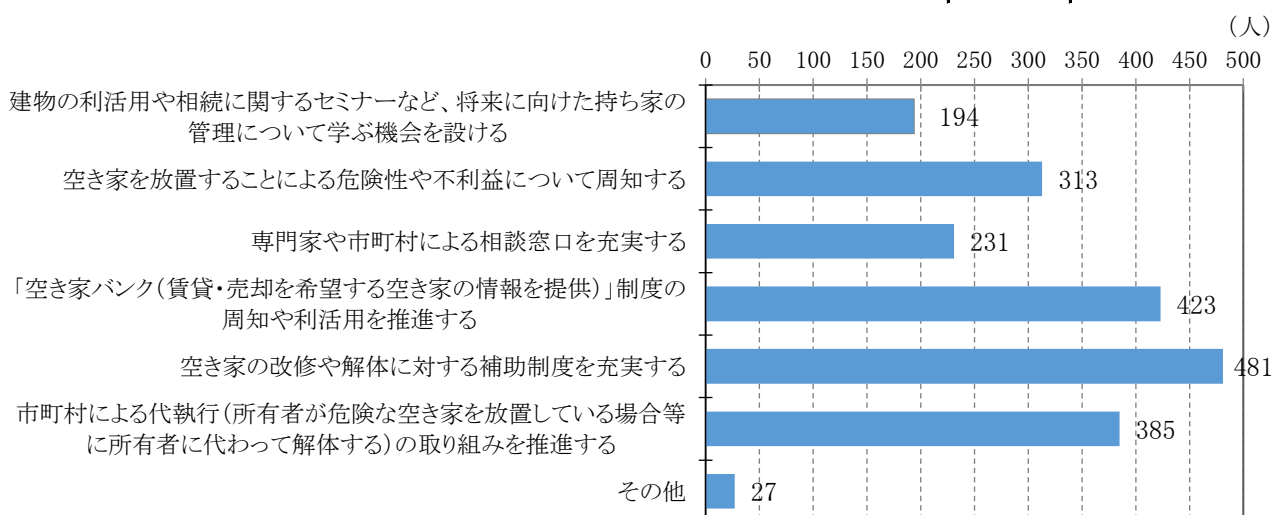
「その他」のうち主なもの

- ・ 静かで、のんびりしており、町の雰囲気が良いこと
- ・ 町内会や婦人会、PTAなどが大変ではないところ

問5 現在、老朽化して危険な状態の空き家、不衛生で周囲の環境や景観を損なっている空き家など、空き家をめぐる問題が県内各地で発生しています。こうした空き家を減らしていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(複数回答) 回答者 795 人

	回答数	割合
建物の利活用や相続に関するセミナーなど、将来に向けた持ち家の管理について学ぶ機会を設ける	194	24.4%
空き家を放置することによる危険性や不利益について周知する	313	39.4%
専門家や市町村による相談窓口を充実する	231	29.1%
「空き家バンク(賃貸・売却を希望する空き家の情報を提供)」制度の周知や利活用を推進する	423	53.2%
空き家の改修や解体に対する補助制度を充実する	481	60.5%
市町村による代執行(所有者が危険な空き家を放置している場合等に所有者に代わって解体する)の取り組みを推進する	385	48.4%
その他	27	3.4%
計	2054	-



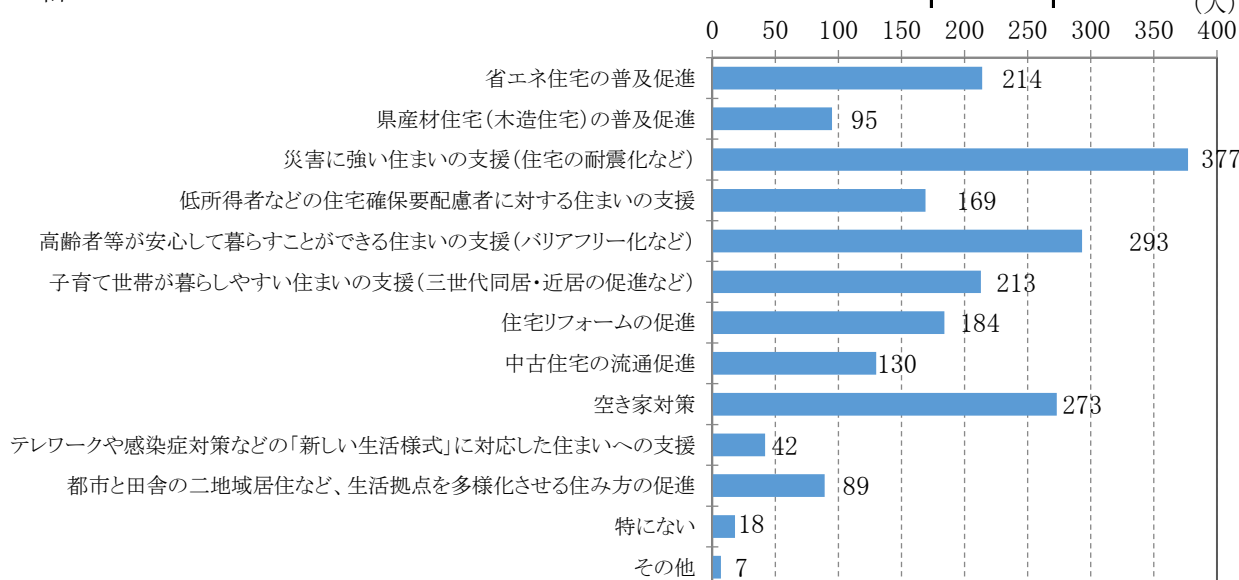
「その他」のうち主なもの

- ・ 空き家を解体した後の更地についての固定資産税の負担軽減
- ・ 遺産相続した場合、5年以内なら解体費用補助
- ・ 近隣住民とトラブルにならない空き家の利活用
- ・ コロナ禍により、地方分散が着目されているので、県公式のTwitterやYouTube等で若い世代に県内中古住宅の安さやリフォーム補助金をPRして転入を推奨していく。

問6 県が住宅施策を進めるうえで、あなたが特に力を入れてもらいたいと思うことは何ですか。

(複数回答) 回答者 799 人

	回答数	割合
省エネ住宅の普及促進	214	26.8%
県産材住宅(木造住宅)の普及促進	95	11.9%
災害に強い住まいの支援(住宅の耐震化など)	377	47.2%
低所得者などの住宅確保要配慮者に対する住まいの支援	169	21.2%
高齢者等が安心して暮らすことができる住まいの支援(バリアフリー化など)	293	36.7%
子育て世帯が暮らしやすい住まいの支援(三世帯同居・近居の促進など)	213	26.7%
住宅リフォームの促進	184	23.0%
中古住宅の流通促進	130	16.3%
空き家対策	273	34.2%
テレワークや感染症対策などの「新しい生活様式」に対応した住まいへの支援	42	5.3%
都市と田舎の二地域居住など、生活拠点を多様化させる住み方の促進	89	11.1%
特にない	18	2.3%
その他	7	0.9%
計	2104	-



「その他」のうち主なもの

- ・ 都市計画に基づいた街づくり

問7 その他、県の住宅に関する施策に対して、ご意見などがございましたらお聞かせください。

主なもの

- ・ 県の補助金制度がわかりづらい
- ・ 空き家対策を徹底してほしい
- ・ 県内の空家を県外や若者に安く借して地域の活性を生み出す仕組みをもっと考えた方が良い
- ・ 住宅団地の空家が多いため、低所得者や学生等の支援に使ってはどうか
- ・ 都内から移住してきたが、最近、関東から離れすぎず名古屋に近い岐阜県に興味を持っている方も多いうように感じる。空き家バンクをはじめ、体験移住など住民を増やす努力をしてもらいたい
- ・ 高齢者住宅団地が多くなりつつあり、若い世代が新たに住み良い街づくりを考えてもらいたい
- ・ 居住地域を生活環境の良好な地域へ徐々に集約化することがこれからの街づくりに必要と感じる
- ・ 二地域居住は、例えば農業ができる環境を組み合わせる等、目的があると人気が高くなると思う
- ・ 様々な手続のオンライン化